

★ メイン情報 ★

■【東海電子の安全への取り組み】

企業理念で「安全」を掲げている会社は多いけど、どんな取り組みをしているんだろう？
「安全」を企業理念として掲げている東海電子の取り組みについて見てみよう！



記録の管理・安全機器の導入

1 運転記録証明書の取得

2015年、まずは営業車両使用者のみを対象に、違反状況を確認することから始めました。
2017年には対象者を自動車免許を持つ全従業員に拡大し、確認するようにしました。



対象者を、営業車両使用者23名から自動車免許保有従業員113名に拡大したよ！

2 ドライブレコーダーの装着

3 衝突防止補助システムの装着

社用車には全てインターネット型のドライブレコーダー・衝突防止補助システムの取付がされています。何かイベント（急ブレーキや、衝突等）があれば、即時に安全運転管理者や所属長にデータが送信され、場合によってはすぐに電話がかかります。

右記理由により、営業社員へいただいたご連絡の折り返しが遅くなる場合があります。安全な場所に駐車後、ご連絡させていただきます。お急ぎの場合は、お手数ですが下記へのご連絡をお願いいたします。



違反・事故の防止

4 アルコールチェック



集約



外勤者・マイカー通勤者はもちろん、車の使用の有無に関わらず、従業員全員が出勤・退社時に据置型のALC-PRO IIを使用し、アルコールチェックを行っています。各拠点の測定結果は、本社に集約し、管理を行っています。

プライベートでも測定できるように1人1つ簡易型測定器ALC-Picoが配布されたよ。



5 免許証チェック

自動車免許を所有している従業員は、アルコールチェック時に入力する個人番号の代わりに、免許証をかざすと測定開始されるシステムを使用し、アルコールチェックと同時に免許証の有効期限等の確認をしています。

6 片手運転の禁止

車を運転する場合は、ハンドルを片手ではなく、両手で持って運転するよう、基本的な運転姿勢についても指導しています。

7 車両運転中の携帯電話（イヤホンでの通話を含む）の使用禁止

道路交通法 第71条 第5項の5（携帯電話使用等保持 / 交通の危険）で定められている通り、車両運転中の携帯電話の使用は禁止しています。また、イヤホン等の使用も禁止し、運転中は「運転だけ」に集中するよう指導しています。

2015年では営業社員の携帯電話の違反が多かったけど、2017年にはゼロになったよ！



東海電子の製品をご使用の方で、
機器の故障や使用方法についてのご連絡先
フリーダイヤル：0120-609-100

その他お問合せのご連絡先（代表電話）
TEL：042-526-0905

自己分析・危険予知トレーニング

正しい法令・知識の習得

8 アルコールスクリーニングテスト

全従業員にアルコールスクリーニングテスト（AUDIT）を実施し、危険な飲酒の仕方をしていないか、自分の飲酒の傾向を把握するように努めています。

9 OD 式安全性テスト

10 ドライビングシミュレータ



自動車免許を取得した全従業員に、ドライビングシミュレータやOD式安全性テストを使った運転適性診断を受けさせ、自分の運転特性を把握するように努めています。

 ドライブシミュレータは可搬型のものだから、全国の営業所で回して使用しているよ！

11 飲酒運転防止インストラクターの資格取得

12 アルコール基礎講座（社内・社外）

13 アルコール依存症に関するビデオ、映画視聴会

アルコールに関わる知識の習得のために、飲酒運転防止インストラクターの資格取得を推奨したり、社内でアルコール依存症に関するビデオや映画等をグループで鑑賞し、意見交換をする場を設けています。

・飲酒運転防止インストラクター取得者 33名



14 運行管理者資格の取得

正しい法令理解を目的に、外勤者のみならず、全社員の運行管理者取得も推奨しています。

・運行管理者資格取得者 貨物 33名、旅客 11名

様々な「安全への取り組み」をしているけど、どうして力を入れようと思ったのかな？
東海電子の安全運転管理者に、きっかけや、取り組みについて聞いてみよう！



東海電子・安全運転管理者へのキキコミ

現状

当社は、本社のある静岡県富士市で、安全運転管理者選任事業所の届け出をしています。本社だけで60名のマイカー通勤者がいます。社用車は全国あわせて18台を使用しています。当社の場合、社用車の安全運転管理もさることながら、マイカー通勤者の安全運転管理や、自転車や徒歩通勤者に対しても交通社会の一員として、路上の安全の義務を負っているという自覚を促す活動を強く意識しています。

きっかけ

当社の安全運転の取り組みは、正直言うとまだ始まったばかりです。5年前に、一步間違えば死亡事故という社用車で的人身事故があり、被害者の高校生とご家族に多大なご迷惑をおかけしたことがありました。それ以来、長距離運転にならないよう新幹線や電車、タクシーへの代替、ドラレコの装着、運転記録証明書、アルコールチェック、免許証チェック等、随時、出来るところから安全運転推進活動に着手しました。

取り組み

最近では、社用車のドラレコをインターネット型に買い換えたり、衝突警報装置を装着したり、ドライビングシミュレータを活用するなど、安全システムへの投資を続けてきました。しかし、システムに頼りがちな面があり、「安全運転の風土」を醸成するには、社員同士で安全運転について真剣に考える場を設けるなど、別の取り組みを増やしてゆく予定であります。

メッセージ

最後に、お恥ずかしい話ですが、昨年、従業員の飲酒運転が発覚するという厳しい現実と直面しました。飲酒運転防止の機器開発や教育活動を行っている身でありながら、よもや自社で起きるとは思いもしませんでした。痛恨の極みです。飲酒運転防止メーカーとして安全運転管理者として、最悪な結果を招いてしまったことを、生涯忘れることはありません。

実際、無事故・無違反とは、何と重い言葉でありませうか。日々、数十人、数百人のプロドライバーの方を指導している企業様の取り組みの真剣さや責任の重さは、想像を絶するものであると感じています。当社でも、社員や社員の家族が、日々安全運転を継続できるよう引き続き頑張っていきたいと思っております。

★ プチ情報 ★

■冬の安全運転方法



冬の運転は、雪道や、路面凍結等、気をつけなきゃいけないことが多いね。
安全に運転するには、どんなことに気をつけなきゃいけないのかな？

冬場の自動車の運転は、路面凍結や雪道等の路面状態、天候等、注意しなければならないことが多くあります。安全運転をするためには、事前に適切な情報を得ることが大切です。

見落としがちな冬場の運転注意ポイント

● 橋の上

● トンネルの出入口付近

● 日陰の道



雪や氷がなくても、冬の冷たい風が吹きつける橋や、トンネルの出入口付近は、路面が凍結しやすい場所です。路面が黒く凍っていないように見えても、ブラックアイスバーンになっている可能性があります。

● 朝晩と昼間の路面状態は別と考える



昼間に路面が濡れている場所は、夜になると気温が下がり、滑りやすくなる場合があります。気温が下がる朝晩と、気温が高くなる昼間とでは、路面の状態は全く違うものと考え、注意しましょう。

雪が降っていないなくても、気をつけなきゃいけないことはあるんだね。
冬場に多い路面の状態ってどんなものがあるんだろう？



冬場に多くみられる路面状態

● アイスバーン

路面が凍結し、氷のようになった状態。昼間に気温が上昇し、いったんとけた雪が夜になって再び凍る際にできるものです。滑りやすいため、注意が必要です。

● ミラーバーン

路面が鏡（ミラー）のようにツルツルになった状態。雪道で車が発進・停止を繰り返すことで発生します。特に交差点付近で発生します。

● ブラックアイスバーン

路面が凍って黒く見える状態。一見すると路面が濡れているように見えるため、凍結に気がつきにくく、非常に危険です。路面が黒く見えても、注意が必要です。



● 圧雪

道路に積もった雪が自動車等によって踏み固められた状態。安全な速度で走行しましょう。

● 新雪

雪が降ったばかりの状態。どこまでが道路なのかわかりづらく、雪にタイヤがはまってしまい、動けなくなる場合もあります。

● シャーベット状

気温が高い時に雪が降り、水分を多く含んだシャーベット状の路面ができる状態。とけかけた雪にハンドルが取られて滑りやすくなるため、慎重な走行が必要です。

降雪時に注意すること

● ライトを点灯する

降雪時は、視界が悪くなりがちです。ライトを点灯し、相手に自分の存在を知らせましょう。



● 車間距離を十分に取る

前方の自動車が急に止まる可能性もあるため、いつでも止まれるように、車間距離を十分に取らしましょう。

● 疲れを感じる前に休憩を取る

吹雪の中や、いつもと異なる路面状態を走行する場合、緊張状態が続きやすいため、こまめに休憩をとるようにしましょう。

● 安全場所で雪を落とす

ライトに雪がつくと、他の自動車から見えづらくなる可能性があります。また、走行中に自動車の上に乗った雪が落ち、後続車に影響を与える可能性もあるため、雪がついたら安全な場所で雪を落とすようにしましょう。

● 大型車の雪煙に注意する

大型車とすれ違う時や、追い越し時にはワイパーを早めに作動させ、減速しましょう。

● 時間にゆとりを持ったドライブ計画を立てる

雪道の走行は、普段よりも慎重に行う必要があります。余裕を持ったドライブ計画を立て、心にゆとりを持ちましょう。

冬場の安全運転の心得

安全運転をするうえで一番大切なことは、「無理をして運転しないこと」です。体調が悪い時はもちろん、慣れない雪道等、無理をして運転しないようにしましょう。また、事前にその日の天気や気温、道路状況等を調べておき、状況にあった対策をとりましょう。



冬場の安全運転チェックポイント

○ / ×	チェック項目
	橋の上、トンネルの出入口付近、日陰の道の路面凍結に注意する
	朝晩と昼間の路面状態は別と考える
	ライトを点灯し、相手に自分の存在を知らせる
	雪がついたら安全なところで雪を落とす
	車間距離を十分に取る
	大型車の雪煙に注意する
	疲れを感じる前に休憩を取る
	時間にゆとりを持ったドライブ計画をする

今年も安全運転に
努めよう！
目指せ、事故ゼロ！



東海電子株式会社 事務局
水野 佐々木 杉本

東京都立川市曙町 2-34-13
オリンピック第3ビル 203号室
TEL : 042-526-0905 FAX : 042-526-0906
<http://www.tokai-denshi.co.jp/>